



私たちは、ヨーロッパの伝統的なビール文化を尊重し、手づくりの本格ビールを通して、ビールにも選ぶ楽しみを提案します。食卓がもっと豊かに、ハッピーなものになるよう、地元岩手よりビール文化を発信していきます。

ベアレン醸造所 スタッフ一同



盛岡シティマラソンを終えて

寫田 洋一 | 代表取締役社長

10月19日、盛岡シティマラソンが約8,000名の参加者で開催されました。地元盛岡で開催される年に一度のイベントということで、ベアレン醸造所もブロンズパートナーとして応援しました。

スタート前の集合写真

とが大きな特徴だと思えます。私もフルマラソンに参加しましたが、沿道には絶え間なく多くの方が応援で出てくれており、時には音楽の演奏やダンスなども披露してくれています。私は走る人もそうでない人もみんなが参加できる素晴らしいイベントだと思っています。

ベアレンがサポートするベアレンランニングクラブからも大勢が参加してくれました。朝、みんなで集合写真を撮りましたが50名以上はいたのではないのでしょうか。その後に円陣を組んで「RUN FOR BEER」の掛け声でハイタッチ、かなり盛り上がりました。外からもだいぶ目立っていたと思います。同じTシャツを着ている仲間同士、励ましあいながら走ることは大変力になるもので、やはり、仲間と走っていてよかったなと思う瞬間でした。

リレーエッセイ

坂爪 燈 | 社長付

ヘッドバンキングしながら盛岡を闊歩しているビアベース駅前店・園尾さんよりバトンを受け取りました、部署不明(?)の坂爪です！ずっとこれといった趣味がなく、休日はサッカー見ながらビール飲むくらいが日課で暇を持て余し気味だったワタクシですが、最近はどうすぐ4歳になる娘となんやらかんやら遊ぶのが楽しみになり、休みになれば色々なところに没入するようになりました。

そんな娘の一番のお気に入りには海で、今年は3月くらいからつい先日まで、2週に1回ペースで海に通っておりました！以前は怖くて近寄れなかった波打ち際を春には果敢に攻めるようになり、夏には小波に突進を繰り返して、秋なのにやはり小波に控えるに突進しています。結果ガングロ園児が出来上がり色白に育てたかった妻は寂しうにしていますが、全力で楽しんでいる姿を見るともうなんか堪らないですね。来年あたりには、浮き輪掴んで大波に挑みかかり波にのまれてギャン泣きするんだろな〜というのを想像するだけで、ニヤニヤが止まりません。近所のスーパーですらすぐに何かに突進して迷子になるようなエキサイティングな娘と、今日も明日も楽しく過ごしたいなと思ってます。



次は同じ年頃の娘さんがいる、ビアベース駅前店の伊藤一樹くんにもバトンをつなぎます！

今月の新製品

菅原 奈々 | 総務部

一緒に飲めば、ちょうどいい。いわて果実の微発泡ワインブランド「Our Hour」から岩手県産りんごを100%使用したドライシードルのご紹介です。1本につき岩手のりんご2個分、地元農家をさんから直送されたりんごを丁寧に絞って造りました。保存料や着色料、香料は一切使用せず、県産果実本来の自然なおいしさを感じることができます。また、その年のりんごの出来や品種で味わいが異なるため、年ごとに違いを楽しむことができます。小瓶の飲み切りサイズなので「量が多くて飲み切れない...」という方にもおすすめ！ぜひ、岩手の果実でつくる特別な一杯をお楽しみください！



編集後記

都鳥 勇介 | 総務部

盛岡の11月、街のパン屋さんやカフェには、つい手を伸ばしたくなる焼き菓子や温かい飲み物が並びます。少しずつ日が短くなり、街の雰囲気も冬の気配を帯びてくるこの時期。日常の中で季節の移ろいを感じながら、もう少しだけ秋の余韻を楽しみたいのです。



各アカウント「覧はこちら」↓



2026年版ベアレンカレンダーが完成しました！今年も岩手にゆかりのあるイラストレーターの皆さんに、四季折々の風景をベアレンの熊とともに描いていただきました。ベアレンと笑顔の一年を！

岩手クラフトビールフェス2025

山本 智也 | 営業部直販課



10月4日・5日の2日間にわたり、なかのはし1・1ひろばと、おでつて前広場で開催された「岩手クラフトビールフェス2025」は、過去最高の盛り上がりを見せました。岩手県内すべてのブルワリーが参加し、今年採れたばかりのフレッシュホップを使ったビールなどが並びました。岩手のクラフトビールの今を一堂に味わえる、まさに岩手ならではのイベントとなりました。

特に話題となったのが、全ブルワリー対象の「飲み比べセット」。各ブルワリーの個性豊かなビールを一度に楽しめるこのセットは、多くのお客さまから「いろんな味が楽しめてうれしい」「岩手のビールレベルが高い!」と好評でした。ビールを片手に笑顔で語り合うお客さまの姿が印象的で、岩手のビール文化が確実に根付き始めていることを実感しました。また、フードブースも過去最多の7社が参加。ビールブースと助け合い、情報交換をしながら運営する姿が見られました。地元食材を使った料理とビールのペアリングも大変好評でした。このフェスを通して感じたのは、クラフトビールが地域の活性化に大きく貢献できるということ。ビールが人と人をつなぎ、地域を元気にする。その輪が岩手のあちこちに広がっていく光景は、私たちにとって大きな励みです。ご来場くださった皆さま、

ま、運営に携わってください。関係者の皆さま、各ブルワリー、そしてフード出店の皆さま、本当にありがとうございました。これからもうございました。これからもベアレンは、岩手のビール文化を育み、次の世代へとつなげていけるよう、地道に、誠実に取り組んでまいります。来年もまた、皆さまと笑顔で乾杯できる日を楽しみにしています。

【あとがき】

事務局として今回も携わることが出来ましたが、準備段階から運営までとっても大変なんですよね(嬉しい方の変です)。各社の取りまとめや現場合わせ対応、懇親会準備や会場設営や撤収まで、頭も体も使ったかつかつのスケジュール!追い込まれてきてる!頑張れ俺!!と鼓舞してイベントが成功した時の達成感を楽しんでいます。スプリングやオクトーバーも同様です!皆さまの楽しむ姿をイメージしながら私も楽しんで運営をしています!

わたしとベアレン

投稿者 | 志水直樹さま

ベアレンビールとランニングを愛する兵庫県民です。
2024年、南米ペルーを走る旅へ。灼熱のイカ砂漠で、どうしてもベアレンを飲みたくて、ビルスナー缶を3本リユックに忍ばせ出発しました。ところが、宿でリュックを開けるとまさかの2本破裂。残る1本を守り抜こうと決意し、野犬に追われ、爪を失いながらも砂漠を500キロ走破。15日後、ナスカの地上絵を見下ろしながら飲んだ一口の感動は、これまでの人生で味わったどんなビールよりも沁みました。

記事募集中!どんな小さなエピソードでも大歓迎!コードから「お名前」「メールアドレス」「電話番号」「投稿記事(300文字程度)」をご入力ください。皆さんとベアレンとの思い出をぜひ教えてください。



↑応募はこちら

レストラン便り

今野 克伸 | 菜園マイクロブルワリー

先日、ICA(岩手クラフトビールアソシエーション)主催による「岩手クラフトビールフェス」が開催されました。昨年より規模を拡大し、「なかのはし1・1ひろば」に加え「おでつて前広場」も会場となり、総勢15社のクラフトビールが勢ぞろい。ビールを愛する人々が集い、その魅力を分かち合うにぎやかで心躍る2日間となりました。

レストラン部は「おでつて前広場」にてフードブースを担当。1日目は菜園マイクロブルワリー、2日目はピアース駅前店が出店し、両日ともにポールスターファームの



ソーセージの販売もありました。最初は会場から少し離れた場所でしたが、穏やかな立ち上がりでしたが、昼が近づくにつれて人の波が押し寄せ、一時は行列ができるほどの盛況ぶりに。思わず「やってよかったな」と笑顔と元気をもらいました。菜園店からは、焼きそば、牛すじ大根、ジャイロチキンなどのおつまみを用意。中でも焼きそばはお昼時に大人気で、あっという間に完売寸前に。顔なじみのお客さまが立ち寄ってくれたさったり、普段お店では出会えない方々とお話できたりと、新たなご縁も生まれました。天気にも恵まれ、笑顔とビールがあふれる中ノ橋の風景は、この夏の思い出として心に残る素敵な時間でした。来年もまたこの場所で、皆さまと乾杯できる日を楽しみにしています。その前に、ぜひお店にも遊び

笑熊会活動報告

永野 宏和 | 菜園マイクロブルワリー

今年もこの季節がやってきました、秋の家族会。ベアレンでは年に二回スタツフとその家族を含んだ家族会というものを開催しております。今年は「都南集いの森」での開催でした。もちろん行きのバスの中からベアレンビールで乾杯。当日は秋晴れの心地よい天候に恵まれ、自然豊かな会場では笑顔があふれ、世代や部署の垣根を超えた交流が広がりました。



会場ではバーベキューを中心に森の散策コースでのレクリエーションを用意、スタッフ同士の親睦はもちろん、家族間の交流も深まり、普段職場では見られない一面をみる貴重な機会となりました。都南集いの森の広々とした空間で、みんなのボルテージは最高潮です。今回の家族会を通じて、職場での絆がより強まり、家族ぐるみのつながりが生まれたことは、今後のチームワークにも大きくプラスになったと思います。今後もそういった機会を大事にしていければと思います。

